

投資関数

原田信行

筑波大学大学院システム情報工学研究科

社会システム・マネジメント専攻

harada@sk.tsukuba.ac.jp

要旨

企業の設備投資行動は、理論、実証ともに膨大な研究が積み重ねられてきた、応用経済学の中核的分野のひとつである。とくに、実証研究については日本企業のデータに基づく分析も多く行われ、日本での研究の関心が高い分野となっている。本稿ではこの設備投資の実証研究に関し、まず基礎理論である q 理論の体系を説明するとともに、日本企業のマイクロデータを用いた実証研究のレビューを行う。そのうえで、新たな計測例として非上場企業のマイクロ（企業別）データを用いた投資関数の推定を行う。投資関数の定式化は、非上場企業という対象の特性から、限界 q の代理変数をベースに、近年の実証研究を踏まえ企業の資本構成（有利子負債依存度）と不確実性指標を説明要因に加えた式を採用する。製造業企業を対象とした推定の結果、 q と有利子負債依存度についてはモデルの想定や多くの先行研究と整合的な結果が得られた。さらに、追加的な計測として非製造業についても同様の分析を行った。推定の結果、非製造業企業についても製造業と同様の傾向が示された。